

連載

自動車リサイクル業界を担うホープ(24)

名前:田原 綾華(たはら あやか)(22歳)

所属:有限会社タナベ(北海道帯広市)

担当:運送部

特技:空手 ソフトボール

MBTI:仲介者型(想像力と感受性が豊かで、新しいアイデアを生み出します)

- 仕事で誰にも負けない部分
どんなことにでも興味を持って挑戦する気持ちは負けません。
- この業界の魅力を一言で
私自身車が好きで、パーツ1つ1つに触れられることが魅力です。
- 将来の業界への期待
鉄、アルミ、樹脂等を回収しリサイクルされることで新品部品の製造に伴うCO2削減に貢献できる点。

※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。



INDEX

【連載】自動車リサイクル業界を担うホープ/巻頭言 —— P.1

【総力取材】自動車リサイクル制度見直し報告書の取りまとめ —— P.2.3

JARCクルマの作品コンクール/SPN総会懇親会/JAERA活動報告 — P.4

2月新車販売台数・使用済自動車発生台数・輸出返還台数 — P.5

賛助会員の紹介 - いその株式会社/賛助会員募集のお知らせ —— P.6

鉄スクラップ最新情報 —— P.7

活動予定・お知らせ / 編集後記 —— P.8

巻頭言

広報部会

永田 則男

春爛漫。寒い冬もようやく終わりを告げ、桜をはじめとする春の花が咲き誇り、景色は一気に華やかで美しいものへと様変わりしました。きっと、このニュースレターをお届けする頃には、そんな穏やかな季節が訪れていることと思います。大自然とは、本当に凄いものだとつくづく思います。決して四季の順番やルールを違えることなく、春夏秋冬は巡り、四月になればきちんと春を運んできてくれます。

私はこうしたことを当たり前と思ってはいけなさと、自分を戒めています。「当たり前」の反対語は「ありがとう」。この「ありがとう」の心を大事にすることが、毎年めぐってくる季節の美しさを、より深く味わうことにつながるのではないのでしょうか。争い事が絶えない昨今。だからこそエゴを抑え、心穏やかな心で日々を過ごしたいものだと感じる今日この頃です。

02

【総力取材】

自動車リサイクル制度見直し報告書の取りまとめ

※関係者への取材や公開資料の分析をもとに、取材班の視点で整理した記事です。

業界の声を起点に、制度検討が次の段階へ

経済産業省および環境省による審議会合同会議において検討が進められている自動車リサイクル制度の施行20年目見直しについて、3月2日に行われた合同会議では、自動車リサイクル制度の評価・検討における主な論点の対応の方向性（案）が示され、今後報告書を取りまとめしていくのに向けた議論が行われました。今回の見直しは制度施行から20年を迎えて表面化してきたいくつかの課題を取上げ、また制度の更なる発展を目指して必要な対応を検討していくこととされています。

今回の審議には、**自動車解体業界を代表する立場としてJAERAから石井代表理事が出席**し、会議では現場の実態を踏まえた具体的な意見が継続的に提示されてきました。こうした現場視点に基づく発信の積み重ねにより、これまで課題とされてきた点が、制度として検討される段階へと進む流れが生まれたとも考えられます。

報告書では、不法投棄の減少やリサイクル率向上といった成果が確認される一方で、不適正解体や輸出、資源の海外流出といった新たな課題が明確に示されました。その上で、「適正処理」から一歩踏み込み、「国内資源循環の強化」へと軸足を移す方向性が打ち出されています。



審議会の様子

不適正事業者対策が「本格検討フェーズ」へ

今回の報告書でまず注目されるのが、**不適正事業者対策**です。廃車ガラの不適正輸出や不透明な流通への対応として、流通段階を含めた管理強化や情報把握の仕組みづくりが整理されました。

これまで実態が不明瞭であった領域が、明確に「今後検討すべき課題」として位置づけられた点に意味があります。現場から指摘され続けてきた課題が、制度検討の出発点に乗ったと見ることもできます。

解体業の能力要件、制度化に向けた議論がスタート

解体業者の能力要件についても、大きな転換点を迎えています。報告書では、必要な知識・技能の明確化と、それを担保する講習・検定制度等の検討が打ち出されました。特に注目されるのは、新たな制度の創設に向けた方向性が示された点です。この講習・検定制度については、**JAERAがこれまで展開してきた「自動車リサイクル士制度」を参考とする形で整理**されており、業界側の取り組みが制度検討のベースとして位置づけられています。また、解体業許可における能力要件の明確化は、JAERAが長年にわたり課題として提起してきたテーマでもあります。今回の整理により、「制度として検討される段階」へと進んだことに加え、これまで目指してきた方向性が具体的な制度の形として見え始めた点は、**JAERAの自動車リサイクル士制度にとって一つの節目と言えるかもしれません。**

資源循環、解体業は“資源を生み出す担い手”へ

資源循環の分野では、資源回収インセンティブ制度の推進や、再生プラスチックの流通量拡大に向けた取り組みの必要性が示されました。

今回の整理では「いかに資源として循環させるか」という観点がより明確に打ち出された点が特徴です。とりわけ、インセンティブ制度の仕組みを通じて資源回収を後押しする方向性が示されたことは、現場の取り組みを政策的に支える動きとして注目されます。また、再生プラスチックの流通拡大についても、単なるリサイクルにとどまらず「資源として活用されること」まで視野に入れた整理となっており、今後の制度設計における重要な論点の一つといえます。

これらはすぐに制度化されるものではありませんが、「何を指すべきか」という方向性が明確になったことで、今後の議論の軸が定まったともいえます。こうした動きは、**解体業の役割が適正処理に加えて、資源供給も担っていくことを示しています。**

ASR処理体制の見直しにも言及

ASR（自動車シュレッダーダスト）処理についても、運営体制の在り方に関して再整理の必要性が示されました。報告書では、現在2チームで運用されている体制について、1チーム化した場合との比較衡量や法的な整理も含め、今後検討を進めていく必要性が記載されています。

こうした点は、現行制度を前提としつつも、より効率的で持続可能な運用体制を模索する動きとも捉えられ、制度の内側でも見直しの議論が着実に進み始めていることを示しています。

リチウムイオン電池も具体的な検討テーマに

リチウムイオン電池については、今後の重要課題として位置づけられ、適切な処理体制の構築に向けた検討の必要性が示されました。報告書では、共同回収スキームの持続可能性や、**廃棄時の安全性（損傷・発火リスク）**、将来の排出量の増加などを踏まえ、どのような回収・処理の仕組みとするかが論点として整理されています。

リユース部品は“資源循環と並ぶ次のステップ”に

リユース可能な部品の流通促進についても、資源循環の議論と並ぶ重要なテーマとして位置づけられました。報告書では、リユースがリサイクルよりも上位に位置づけられる取組みであることに加え、部品流通の拡大が1台あたりの価値向上や解体業者の収益向上につながる点が指摘されています。

そのうえで、自動車メーカーや整備事業者など関係者が連携し、流通の実態把握や具体的な促進策を検討していく必要性が示されており、資源循環とあわせて“次のステップ”として議論が深められていく見通しです。

「報告書に載った」ことが意味するもの

今回の報告書のポイントは、個々の施策の中身だけではなく、「何が検討対象として位置づけられたか」にあります。

報告書に明記された内容は、今後の制度化に向けた議論の前提となることが多く、今回整理された論点についても、今後の検討が加速していくと考えられます。その意味で、これまで業界側が提起してきた課題が、制度検討のスタートラインに乗った意義は大きいといえます。

今後の展望

今回の報告書は、制度見直しの“結論”ではなく、“出発点”です。

今後は、ここで整理された論点をもとに、具体的な制度設計に向けた検討が進められていくことになります。その中で、現場の実態や課題がどこまで制度に反映されていくのか。今回の議論を通じて、その土台が整い始めたともいえます。制度と業界の関係が次の段階に移りつつあるなか、今後の動向が注目されます。

また、今回整理された論点の中には、これまでJAERAが現場の声として提起してきた課題や提言と重なる内容が多く見られます。解体業者の能力要件の明確化や講習制度の検討、資源回収の高度化、リユース部品流通の促進などは、いずれも業界の実務に根差した継続的な問題意識の延長線上にあるものです。

これらの論点は、今回新たに生まれたものではなく、過去の審議会の場合においても、歴代の代表理事をはじめとする関係者が粘り強く提言を重ねてきた経緯があります。そうした積み重ねが、今回の報告書において具体的な検討事項として位置づけられたことは、業界の声が制度検討の中で着実に蓄積され、形になりつつあることを示すものといえます。

JAERAはこれまでも、会員事業者の知見や実務の蓄積を背景に、業界の立場から制度議論に対して意見を発信してきました。制度見直しの検討が本格化していくこれからの段階においても、現場の実態を踏まえた提案や情報発信を通じて、業界としての声を政策の議論につなげていく役割が期待されます。

制度と現場をつなぐこうした取り組みは、個々の事業者だけでは難しい部分もあります。JAERAという枠組みを通じて業界の知見を集約し、継続的に発信していくことが、今後の自動車リサイクル制度の姿を形づくっていくことになりそうです。

第65回合同審議会資料は[こちら](#)（経済産業省HP）

03

次世代の発想に触れる

—JARC 作品コンクールに木内副代表が出席

（公財）自動車リサイクル促進センター（JARC）が主催する「第9回クルマの作品コンクール」が、2026年3月25日（水）に自動車会館くるまプラザ（東京都港区）で開催されました。当機構からは木内副代表が審査員として出席し、特別審査員として「そんなの関係ねえ!」で知られる小島よしおさんも登場し、会場を大いに盛り上げました。

本コンクールは、担う子どもたちに自動車リサイクルの大切さを伝えることを目的としたJARCの取り組みであり、今年も個性あふれる作品が数多く寄せられました。表彰式では、作品一つひとつに込められた思いや発想の豊かさに触れる場面が続き、会場は終始和やかな雰囲気にも包まれました。こうした取り組みを通じて、資源循環や環境意識が着実に次世代へと根付いていることが感じられます。日々現場で自動車リサイクルに携わる私たちの仕事が、未来へとつながっている——その意義を改めて実感する機会ともなりました。

今後もJAERAとして、自動車リサイクルの普及啓発活動への協力を行いながら、業界の価値発信に引き続き取り組んでまいります。



特別審査員として小島よしおさんもご参加

04

にぎわいの中で交流深まる

—SPN 総会懇親会に阿部専務が出席

（一社）SPNは3月24日（火）、東京ガーデンパレス（東京都文京区）において第3期総会懇親会を開催し、リサイクル部品流通に関係する企業や団体など、多くの関係者が参加しました。

冒頭のあいさつで齊藤理事長は、リサイクル部品が保険業界をはじめ広く認知されてきた現状に触れつつ、「今後は当たり前には選ばれる存在として定着させていくことが重要」と強調しました。また、JAERAから出席した阿部専務理事が乾杯のあいさつを行い、合同審議会を通じて業界の実情が共有されつつあることに触れながら、適正化に向けた今後の動きへの期待を述べました。会場は終始にぎわいを見せ、関係者同士の交流が深まる場となりました。



阿部専務理事のあいさつ

05

JAERA 活動報告

未来部会主催「こんなに違う？」若手の本音に迫る採用・定着セミナー

3月4日（水）未来部会主催「採用力強化と人材定着」をテーマとしたWEB勉強会が開催され、31社36名が参加しました。人手不足が続く中、本勉強会では解体業界にも詳しい労務管理の専門家大江先生を講師に迎え、求職者が重視するポイントや、求人票の打ち出し方・見せ方といった実務的な工夫について解説いただきました。参加者からは、「今どきの若手の考え方が理解できた一方で、想像以上にギャップがあり驚きも多かった」といった声も聞かれ、採用・定着に向けた課題認識を新たにする機会となりました。

東北ブロック会議 —最新の制度動向と業界課題を共有—

3月12日（木）仙台中小企業活性化センター（宮城県仙台市）で、東北ブロック会議が開催され、JAERA本部から木内副代表が出席し、各支部代表と意見交換を行った。

会議では、自動車リサイクル制度の見直しや業界の適正化に向けた動向、メーカーとの連携強化などについて本部から報告が行われた。今後の制度運用や事業環境の変化を見据えた方向性が共有された。

また、リユース部品の流通促進や再生樹脂への対応など、資源循環を巡る課題についても言及し、事業環境が変化するなか、今後の方向性を共有する場となった。

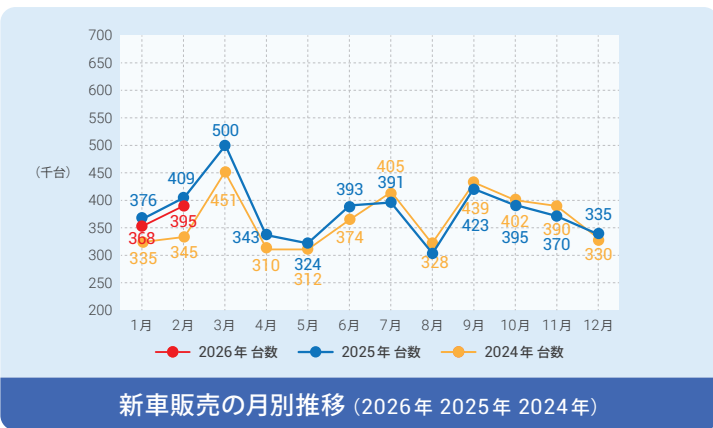
06

2月新車販売・使用済自動車発生台数・中古車輸出に係る返還台数

2026年2月の台数動向

— 新車・使用済は前年割れ、輸出の返還件数は大幅に増加

■2026年2月度 新車販売台数 394,965台 (前年同月比96.5%)

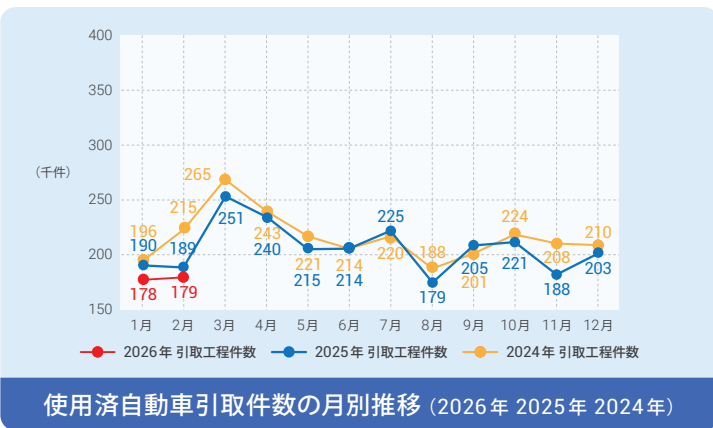


年累計	台数(台)	前年比(%)
2026年(2月まで)	762,717	97.1
2025年	4,565,777	103.3
2024年	4,421,494	92.5
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況

2026年2月度 引取工程 178,760件 (前年同月比94.6%)



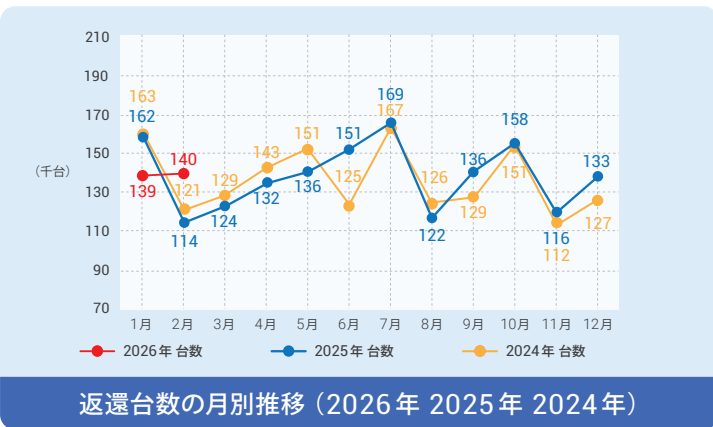
年累計	件数(件)	前年比(%)
2026年(2月まで)	356,561	94.1
2025年	2,519,062	97.2
2024年	2,607,112	95.5
2023年	2,731,329	98.6
2022年	2,769,122	87.5

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

■中古車輸出に係る返還台数※

2026年2月度 140千台 (前年同月比122.8%)

※中古車の輸出に伴い、預託していたリサイクル料金を返還した台数



年累計	台数(千台)	前年比(%)
2026年(2月まで)	279	101.0
2025年	1,656	100.7
2024年	1,644	111.0
2023年	1,481	115.7
2022年	1,281	95.5

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

07

JAERA 賛助会員の紹介

— いその株式会社 —

当社は1957年の創業以来、約70年間、再生プラスチック原料の製造販売を通じて地球環境の保全に貢献してまいりました。本社は愛知県名古屋市にあり、工場は国内では愛知県稲沢市と福岡県北九州市に、海外では中国とタイにあります。

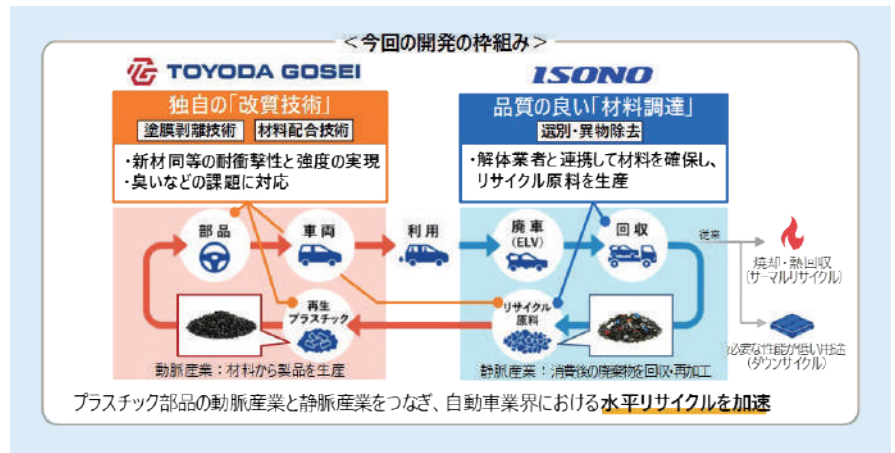
特に、自動車部品向けの再生プラスチック原料の製造に力を入れており、昨今のサーキュラーエコノミー（循環経済）への取り組みが活発になる中、欧州は車輻生産に用いるプ

ラスチックの15%以上を再生プラスチックとし、このうち20%を自動車由来とする規制を検討中ということもあり、国内自動車メーカーは再生プラスチック原料の利用を積極的に進めております。

そのような中、当社は数年前から、使用済み自動車（ELV; End-of-Life Vehicle）から取り出したプラスチック材料の再資源化を促す精緻（せいち）解体を多くの自動車解体事業者と進めており、豊田合成など自動車部品メーカーに高品質な再生プラスチック原料を納めております。

今年4月より、貴機構主体で推進される「資源回収インセンティブ制度」（ELV由来のプラスチック材料等を解体・破碎工程から回収することを目的としたインセンティブ制度）が開始されることを受け、ますますELV由来のプラスチック材料の入手量が増えることを大いに期待しております。

弊社は、日本国内の自動車メーカーへの再生プラスチック原料の供給サプライチェーンの安定化に寄与すべく、できるだけ多く購入してまいりたいと考えております。本件に関しましては、下記担当者へお問合せいただければ幸いです。皆さまのご期待に添えられるよう進めたいと思いません。よろしくお願いたします。



【お問合せ先】

いその株式会社 資源循環開発室 朝妻（あさつま） 電話：0587-32-8181

JAERA 賛助会員 募集中 —ともに業界の未来を—

JAERA（日本自動車リサイクル機構）は、使用済み自動車の適正処理とリサイクル部品の普及を通じて、環境保全と循環型社会の実現に取り組んでいます。賛助会員になると、①最新の業界動向や政策情報をいち早く入手、②各種イベントや勉強会への参加、③自社PRの機会の提供など、さまざまなメリットがあります。

皆様のご参画をお待ちしています。

申込は[こちらから](#)

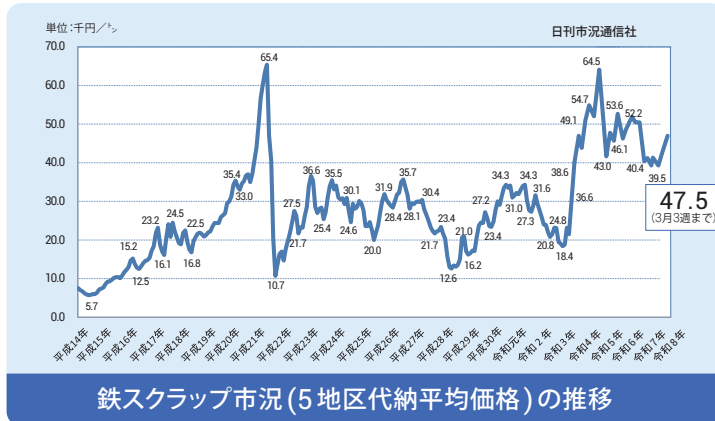


08

鉄スクラップ最新情報

[提供：日刊市況通信社]

3月第4週（24日）の鉄スクラップ動向



3月24日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	48,500 ~ 50,000	続伸
	南関東	48,500 ~ 50,000	続伸
	浜値	49,000 ~ 49,500	続伸
名古屋		48,000 ~ 49,000	続伸
関西	大阪	48,500 ~ 50,000	続伸
	姫路	48,500 ~ 51,000	続伸

日本国内の鉄スクラップ市場、3月20日から500～1,000円どころ続伸

国内鉄スクラップ市況が続伸する展開だ。この1カ月間に5,000円どころの急伸となり、H2相場は1トンあたり5万円に迫る価格水準となっている。内外に強要因が多く、なお堅調な相場展開を続けている。

東京製鉄は20日、鉄スクラップ購入価格を拠点別に500～1,000円値上げした。この値上げで特級購入価格を4万9000円に揃えた。他の国内需要家筋の間にも同様の値上げ改定の動きが広がり、国内相場は500～1,000円どころ続伸することとなった。

海外市場では、米国内相場が高止まりし、国際相場を牽引。トルコ向けのオファー価格を一気に引き上げる動きが広がり、米国シッパーのオファー価格はHMS1&2(80:20)でCFR395～400ドルに急上昇した。これに円安の要素が加わり、日本玉輸出市場も堅調な相場展開だ。3月の関東鉄源テnderおよび中部鉄源テnderの落札価格は実施日の時点の国内相場を上回る水準で、輸出市場の強さを示している。また国内市場では、電炉鋼生産は依然として減産基調ながら回復傾向が見られ始めている。内外の強要因が鉄スクラップ市況を押し上げている。

東日本 23日にかけてメーカー値上げ進行

東京製鉄は3月20日からの鉄スクラップ購入価格を関東2拠点で1トンあたり500円、その他拠点で1,000円値上げした。この影響で関東メーカーは一部が対応を見送ったものの、20～23日にかけて追随や調整の値上げが進んだ。また東北と新潟で500円、北海道で1,000円がた続伸した。関東地区のH2炉前実勢価格は48,500～49,500円中心、高値50,000円見当。H2浜値は概ね49,000～49,500円中心で、神奈川・川崎方面がやや割高。

東海 需要家筋が追加値上げ、1,000円続伸

東海電炉の間に3月20日、鉄スクラップ購入価格を値上げ改定する動きが広がり、東海相場は1,000円どころ続伸した。米国内相場の高止まりを背景に海外・輸出市場が堅調な推移を続けている。また、東海電炉全体の3月の粗鋼生産量が4カ月ぶりに50万トンに乗せる計画となっており、鉄スクラップ需要が増加する見込み。このため東海市場の鉄スクラップ需給は引き締め感が出ている。H2炉前実勢価格は48,000～49,000円中心。

西日本 20日の東鉄値上げに大勢追随で続伸展開

西日本地域の鉄スクラップ市況は東京製鉄にけん引され、3月20日から姫路の一部を除いて続伸展開となった。一部で先行していた姫路に続いて大阪でもH2高値が1年8カ月ぶりに50,000円を突破した。3連休後も東京製鉄や生産量の高いところを中心に入荷促進の手を緩めにくく、今後も同社や輸出次第の環境ながらも、強含みで推移する公算が大きい。H2炉前実勢価格は、大阪が48,500～50,000円、姫路が48,500～51,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、3月24日午後時点のもの)

09

JVR（日本自動車リサイクル研究所）より サテライトセミナー参加者募集について

電気自動車等の整備業務に係る特別教育セミナー

JVRでは、解体事業に従事される皆さまに向けて、「電気自動車等の整備業務に係る特別教育」を主題としたセミナーをWeb形式で実施しております。

電動車の普及が進む中で、この特別教育は単なる推奨ではなく、法令に基づき受講が義務付けられている“必須の教育”です。令和元年の労働安全衛生規則改正により、電気自動車等の整備・解体作業に従事する作業者には、本特別教育の実施が事業者には義務付けられました。

本セミナーでは、現場で必要となる実践的な知識を分かりやすく解説し、Web形式でどこからでも受講可能です。ぜひ受講をご検討ください。

■募集案内は[こちら](#)

■申込書は[こちら](#)

—第1回申込締切日：2026年5月20日（水）JVR事務局宛て—

編 集 後 記



今年2月は、日本国中がミラノ・コルティナ五輪で大いに盛り上がりました。日本人選手の活躍に一喜一憂したのは私だけではないでしょう。

なかでも印象的だったのがフィギュアスケート勢の好成績、とりわけ“りくりゅう”ペアの金メダルには、多くの人が心を動かされたことと思います。

そして、もう一つ心に残った出来事があります。表彰式で日の丸が掲げられ、「君が代」が流れた際、スクリーンには歌詞がイタリア語と英語で表示され、それを目にした多くの外国の方々が感動したという話を耳にしました。

「君が代」を今風に訳せば、「あなたの命が、永遠に、小さな石がやがて大きな岩となり、苔が生えるほど長く続きますように」といった意味になるそうです。まさに、同じ目標に向かい、互いを信じ支え合って滑りきった“りくりゅう”ペアの演技そのものを表しているかのようにも感じられました。

改めて、相手を思いやる心や、その平和と幸せが長く続くことを願う優しさ——そうした価値観を大切にしてきた日本の文化に、感謝の気持ちを抱かずにはいられません。

広報部会長 田村 幸男

4 月の活動予定&取組み

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

- 15日（水） | 関東ブロック会議（対面・WEB）
- 17日（金） | J-FAR（実態調査）定例会（WEB）
- 22日（水） | 長野県支部設立総会（対面）
- 23日（木） | 第1回広報部会（WEB）
| J-FAR（異常電池）定例会（WEB）

